

今回行われた東京大学見学会、大学企業訪問で私はたくさんの貴重な体験をし、自分の中にさまざまな感情が芽生えた。高校生の今しかできないこともあり、非常に充実した2日間を過ごすことができたと思う。その中で、私にとってとても印象深かった体験を紹介したいと思う。

1つ目は1日目の大学企業訪問だ。私たちの班は順天堂大学の天野篤教授を訪ね、お話を伺ってきた。天野教授は冠動脈バイパス術の専門医として年間500件の手術をこなし、98%の成功率を持つ日本屈指の心臓外科医である。

『一途一心、命をつなぐ』（飛鳥新社）

『熱く生きる』（セブン&アイ出版）

『この道を生きる、心臓外科ひとすじ』（NHK出版）

これまでに数多くの著書も出版されている。

2012年に天皇陛下のバイパス手術を執刀したことで有名である。

そんな天野教授が私たち高校生相手にお話をしてくれることはとても光栄なことであり、私はとても楽しみにしていた。お忙しい天野教授なのでどれくらいの時間お話を伺えるかは正直見当がつかなかったのだが、実際会って話してみると、非常に優しいお方で、予定よりも30分以上も長く私たちにお話を聞かせてくれた。私たちは積極的に天野教授に質問や疑問を投げかけた。天野教授はすべての質問に対して、私たちに分かりやすいよう丁寧に回答してくださった。その中で私には気になった回答があった。

「天皇のバイパス手術の依頼がきたときどう思いましたか？」

という質問に対し、天野教授は

「やっぱり、きたかと思った。」とお答えになった。

私にはこの言葉を理解するのに時間がかかった。私がもしこの立場だったら、天皇陛下の手術なんて恐れ多くて、不安や心配が先に思い浮かぶだろう。だが、たくさんの執刀経験があり、自分の腕に自信があり、自分の腕を信じられる天野教授だからこそその発言であるのだと、後から理解することができた。また、その日の夜に行われた東京大学に在学中の二高生OBとの対談会でも、質問に対する気になる回答があった。

Q.「どうして東京大学を志そうと思ったのですか？」

A.「入れそうだったから。」

このように、私たちが憧れるような偉大な方々は自分に自信があり、大きな夢を持っているのだということが分かった。しかし、ただ傲慢な態度をとっているのではなく、そこに至るまでに人一倍努力しなければ、このような大きな発言はできないと思う。私も自分に自信をつけられるように、たくさんの経験や努力を積み重ねたいと思った。

天野教授との対談が終わった後、私たちは記念撮影をし、サインもいただくことができた。サインには「一途一心」という文字が書かれていた。この言葉には「ひたむきに、ひたすら」という意味があると後に調べて分かった。私も「一途一心」に何事にも取り組み、天野教授のような素敵な人生が送れたらと思った。

二日目はメインイベントともいえる東京大学を見学した。これが私の中で印象深かった二つ目の出来事だ。東京大学について私たちはまず、有名な赤門から中に入った。実際に見てみると興奮と感動がこみ上げてきた。言葉ではうまく説明できないが、心が熱くなるようだった。

一日の行動が自由だったため、それから先は各々の行きたい学部などを見学しに行った。私は、午前中に理学部に行った。理学部を見学してみてもまず驚いたのは、機械が充実していることだ。最新の機械を巧みに使って研究する学生さんの姿はとてまかつよく、これからの日本の技術を担っていく期待の星であるということも同時に感じた。今まで私は大学とはてつきり過去に解明された事実に基づき、それをさらに詳しく研究するのがほとん

どだと思っていた。しかし、東京大学では積極的に新しい研究を取り入れ、学生自身で一から研究を進めており、さすが東京大学だと改めて東京大学の魅力を感じることができた。

午後からは安田講堂で 入試制度や学部別の話を聞いたり、医学部の博物館を見た。安田講堂は東京大学のシンボルでもある茶色のレンガ造りの建物で、名前さえ知らなかった私がつい立ち止って眺めてしまうほど、インパクトがありきれいな建物だった。東京大学は広い敷地の中にたくさんの建物やオブジェ、池などもあり、そのような外観を見てまわるのも気づいたら私の一つの楽しみになっていた。それほど東京大学は魅力のある学校だった。また医学部博物館には、法医学についての特集コーナーがあり、法医学についてあまり知らなかった私にとってはとても興味深い資料がたくさんあり、将来の職業についての選択肢や視野が広がったとても良い体験ができた。

研修を終えた今、このように文章につづってみると、たくさんの思い出が鮮明によみがえってきた。二日間が過ぎるのはあっという間だったが、その分実の詰まった充実した時間を過ごせたと思う。この経験を通して私は、勉強だけでなく、たくさんのことに意欲がわいてきた。この経験は一生忘れず心のなかに刻まれていくと思う。また、来年から参加しようと迷っている生徒にもぜひおすすめしたい。

最後になりましたがこのような貴重な体験ができたのは、私たちの面倒を見てくれた親、先生方や出会ったすべての方々のおかげだと強く思っている。心から感謝の気持ちを伝えたいと思う。そして、この恩は絶対に私が将来社会に貢献できる人間となって恩返ししていきたいと思う。